３つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森

不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.504-505

エコプロダクツ展に初出展、ご来場ありがとうございました

【新年のごあいさつとこれからの展望】

昨年の活動概要と当面の対応について

　新年明けましておめでとうございます。本年も引き続き、緑のダムの活動へのご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。昨年の活動ですが、月２回の活動という制約の中で、
[1]地球環境部による若者の森づくり活動
[2]若葉まつり等各種イベントへの参加
[3]体験学校等若者たちが森での活動を経験する場の提供
等の継続した活動に加え、嵐山からの撤収にも引き続きかなりの時間を割かざるを得ませんでした。嵐山の作業につきましては、倉庫等建屋の解体は完了したものの、未使用の間伐材、嵐山での活動開始後に搬入した大量の大谷石といった残置物等までは処理しきれず、翌年に積み残すこととなりました。出来るだけ早く処理を終わらせたいので、皆様のご協力をお願いし

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

ます。
　一方、小原地区とのかかわりでは、
[1]地元桂北小学校の総合学習の一環となる小学生の間伐体験サポート
[2]里山散策コース整備として１,０００坪の花畑づくりサポート
等新たな活動もスタート。今後さらなる展開につき話し合いを進めようかという中で、小原地区も、台風１５号、１９号による大きな被害が、特に１９号ではがけ崩れ等が各所に発生し、地元としては行政との話し合いによる復旧が最優先という状況にあります。
　地元に対しては、安全面を考慮しながら、限られた範囲ではあるものの協力は惜しまない旨申し出てはいますが、当面は事態の推移を見守りつつ行動せざるを得ないかと思っています。
　なお、小原地区での活動をするための拠点（集会場所、倉庫、駐車場）の整備、新たな機材の調達等につきましては、お陰様で、地元の方々、支援団体のご協力を得ることが出来、体制が整いつつあります。当面多くの課題はありますが、我々としては、今何をすべきなのかということに意を払い、皆さんの期待に沿えるよう頑張っていきたいと思っています。

川田　晃（本会、代表代行）

【定例活動報告】嵐山の森

第３日曜日の活動より

　いよいよ師走を迎えるが早いもので年々月々の流れを早く感じる様になる。今回は各班ごとの活動とした。森林整備班は嵐山基地に残した間伐残材の片付け作業を行った。
A：モマ小屋前にて薪用に乾燥させている材、B：木工班小屋前に積んだ材、C：林道横に積んで集積させた材、これらでA+B+Cで約120本で約50立法メートル近くを基地に移動させる作業を軽トラを使って4名で行った。割としっかりしており活用出来そうな材50本と薪用の丸太100本を永井さんの梅林まで運んだ。残りは来年2月に知人の木材木材破砕車にお願いし、チップ加工にする。その後お花畑班の畑に埋まった大谷石の板（一部が相当重い）の運び出しを手伝った。12/10～12/11で東京ビックサイトで開催されたエコプロダクツで知り合ったフォレストセイバー研究所の林哲久代が当団体を訪れた。我々の活動や竹林の相場を見て頂いた林氏は竹炭や竹細工のほか竹の燻製を作る活動で木コン賞受賞され、強度を持ち、長持ちする光沢のある竹を作る特許申請中の材で竹が欲しいとのことで今回を期に緑のダムに参加することになった。作業終了後はみなさまと楽しく会食した。

小林　照夫（本会、理事）

桜井尚武の森のコラム

「アオキ（*Aocuba japonica*）」

図1 アオキの果実

20190114青梅天狗岩自然歩道

ミズキ科（最近はアオキ科）の常緑低木で荒い鋸歯のある大きい緑の葉が対生します。宮城県以南の低山帯。山地帯の樹林下に普通にみられます。雌雄異株です。雌株では晩秋から早春にかけて大きな果実が赤く熟して目立ちます（図1）。これはヒヨドリやネズミ類のいい食糧です。耐陰性が高くスギ林やヒノキ林の暗い林内でも旺盛な繁殖が観察できますが、アオキの密生した斜面の尾根を分けた反対斜面にはほとんど見られないということがよく観察されます。多く繁茂するところとほとんど見られないところの差が何が原因で生ずるのかわかりません。

図2 雄花　20190405六義園

雄花と雌花は春にそれぞれ円錐花序を開き小さな紫褐色の4弁の花をつけます（図2、図3）。ときに白色の花弁をつけるものもみられます（図4）。

世の中が安定してある程度裕福になると園芸に興ずる人々が増えてきます。1700年代以降には園芸や香料、薬種、産業用などに有用な植物を世界中を回って探索する人々が現れました。プラントハンターといわれる人々で、ソメイヨシノで有名な染井村をはじめとする日本の植木市が充実しているのに感嘆したということです。その一人のイギリスのジョン・グレツァーが赤い実のついたアオキを1783（天明3）年に日本からヨーロッパへ伝えて、大きな反響をよんだそうですが、持ち帰ったのが雌木の株だけでその後は結実しませんでした（日本大百科全書（ニッポニカ））。1860（万延1）年に来日したフォーチュンが雄木を採集してイギリスに運び赤い実がみられるようになり、冬季でも緑でしかも赤い実がたわわにみのるアオキはさらに大きな評判を得たといいます。学名はアオキューバでまさにアオキの葉を意味し、種小名はジャポニカとされました。

図3 雌花　20190405六義園

図4　白い雄花　20190405六義園

幕末に来日したケンペル、ツンベルク、シーボルトなども多くの植物を日本紹介の傍ら西洋に運びました。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】ForesTo Class

小原エリア長福寺さんの山へ入る

今回は先月とうって変わり新たなフィールドを模索するため、長福寺さんの山へ緑のダムの学生メンバー達と入らせていただきました。

～急勾配なフィールドの測量～

GPSで分かっているエリアを実際にコンパスとモニターを使って合っているかどうか測量していく作業に同行しました。

10月にも一度歩かせてもらいましたが、かなりの急勾配で苦労しました。

測量作業で邪魔になる下草をかっていきましたが足を取られる場面があり、今月フルマラソンを完走した自分の足の筋肉とは無縁であり、別の足の運び方が必要だと感じました。山を歩くと一つとっても、平坦な尾根筋を歩くのとは違い、足首を使って指やすねに神経を持っていくようなイメージで、非日常の足腰の鍛え方になるなと別の事を考えてしまいました。山でエクササイズというのも面白く、体を鍛えたい方はぜひご参加いただきたいと思います。

話を戻して、測量については角度が逸れるとコサインで求めて、距離をとっていく作業で地図上の線と線を結んでいきます。コサインなんて普段全く使わないので忘れており、私は恥ずかしい思いをしましたが、高校生は学んだ事を山で活かしており、実践の場になっていると感じました。学んだ知識を自分のフィールドで使ってみる事で、自分の中にインプットされていくのだと思います。おそらく私みたいに忘れないのかなと思いながら尾根を目指しました。

尾根筋にたどり着くと相模湖から流れ出る川も見えて綺麗な景色が広がりそうな雰囲気で整備していけばきれいになると感じました。

～新フィールド途中路での整備～

午後からは新しいフィールドとして考えている下の場所で倒木があり、その整備と学生による間伐作業に同行しました。※写真でいう青のフィールドの一番下のあたり。

台風の影響で道もなくなっており、簡易的な作業路を必要性も感じました。倒木も間伐も受け口、追い口で倒して行きましたがいずれも掛かり木になってしまいました。私は午前中の疲れもあり、ロープにぶら下がって見てるような展開でしたが、見ていてやはり段取で全てが決まると思いました。メンバーの二藤さんに聞くと林業の現場では段取8割、実施2割というくらい準備が必要で、受け口の見通しで決まるそうです。これからやって行きたいと考えている奥のフィールドはさらに木々が入り組んでいると考えられるので、どこに倒すべきかを誤らないようにしていきたいと思います。

奥のフィールドと孫山へのルートがつながることになれば、小原本陣や小原の郷へ降りていける。またお花畑班の場所も見てもらえる流れができる、といった希望を持ちながら次回も入って行きたいと思います。

滝澤　康至（ForesTo Class）

■ 林業プロの視点 ～二藤の眼～

作業に入る前に
～作業手順を考え・共有する重要性～

『二藤の目』という事で、同じ活動メンバーの滝澤がカッコ良くネーミングしてくれましたが、そんな大それた事は言えませんので、細々とマニアックな事を書いて少しでも周りに何か貢献できたらと思います。

さて、先日の定例活動では学生メンバーの間伐作業に同行し、作業のお手伝いをさせてもらいましたが、その際に伐倒した木が『かかり木(周囲の木に引っかかって倒れない状態の木のこと)』になってしまい、その木を倒すのに大変な労力と時間がかかってしまいまし

た。

それは仕方がなった事だったのか？それとも未然に防げた事だったのか？

答えは後者です。

今回は伐倒予定の場所に引っかかってしまうような木があるという事を事前に気づく事が出来なかったために起こったものでした。

それは作業に入る前、どこに木を倒すか決める際に倒す先に何か障害物はないか周囲をよく確認する事で、違う伐倒方向を選択する、またはその支障になる木を発見し先に処理するという対策で未然に防げます。

作業に慣れていなかったり、ひとつ目の前の作業に集中し過ぎてしまうとどうしても周りが見え難くなってしまいますが、そこは作業するぞ！という気合いの入った気持ちを抑えてください。『間』というものを大切にひと呼吸おいて『何をどういう手順でやるのか、またそれを行う際に危険や支障はありそうか、あればどう解決するか』、その一連の流れを少しでも一緒に作業するメンバーと共有するだけで作業の効率も安全性も全然違います。

特に同じ場所で多くの人が作業するボランティア活動では、バラバラに人が動く事で事故が起きる可能性も高いのでとても重要です。当たり前の事のように思えますが、自分たち林業の現場では協調性がない人が多いせいか、できていない所の方が多い気がします。

少ない時間の中で面倒な部分はあるとは思いますが、ひと手間の重要性、少しずつでも今後の活動で共有していけたらと思います。

二藤　政毅（ForesTo Class）

【若者の森づくり】地球環境部

地球環境部に中一から大学入学まで活動している牧野くんが早稲田大学の森林サークルに入り、その仲間が知足の森の活動に参加してくれたので感想をご紹介します。

思惟の森の会2年の野田です。先日は活動に参加させていただきましてありがとうございました。活動自体は、今までやったことのないこともあり、新鮮で面白かったです。

今回の活動地のような放置林の問題や、地形の正確な把握は自分達の活動地でも課題であり、少人数でのフットワークの軽い活動は自分達には特に新鮮でした。例えば普段は鋸鉈必須で活動しているので、「手入れも大変だし鉈は使わないで鋸だけ」というのは意外にも目からうろこでしたし、GPSを使った測量は実測値が大体あっているかを実感することができたのは非常に興味深かったです。普段牧野がどんな活動をしているの知りたかったためにお邪魔させていただきましたが、こんな感じで自分たちの活動に取り入れられそうなことも見つかったので、とても楽しく、有意義な活動になりました。他には年間を通してどんな計画を立てて森を手入れ・管理しているのかなどもっと知りたいこともありましたので、是非また会員を連れて参加したいと思っております。この度はありがとうございました。

野田　奈々美（首都大学東京2年）

その他の地球環境部の活動報告

11月の木曜日３回で、相模原市立桂北小学校５年生の総合を担当しました。５年生は社会でも森について学習することになっており、それとも関連しつつ、私たちの住む地域、をテーマに森について考えてもらいました。まず１時間の事前学習をして、２回目に竹林整備、３回目は長福寺知足の森で間伐体験をしてもらいました。竹林整備では、初めて生木用のノコギリを使い、たどたどしく手を動かしていたと思っていたら、あっという間にコツをつかんだようで、次から次へと竹を切っていけるところは若さゆえの吸収力、適応力があって、感動しました。竹林をきれいにしていきたい、という気持ちから次はこれを切って、でもこれが邪魔だから、まずこっちを切って、という風にみんなで相談しながら作業できました。会からは川田さん、小林さん、宮村で対応しました。３回目はスギヒノキ林に入ってもらい、やはり３チームに分かれて１本ずつの間伐。少し斜面が急でしたが、思い思いの長さに切って持って帰ってもらいました。みな、一様に充実した顔つきで、またやりたい、と声を揃えてくれ、今後も一緒に活動していければと思います。

続いて、月末には、こちらは恒例の東海大高輪台高校SSHの受け入れ。４０人の大所帯で、これまでは嵐山で活動してきましたが、今年から、知足の森の小原側の離れた区画。こちらは桜井先生、川田さん、粟田さん、宮村と地球環境部の木村。植生調査、間伐、下草刈り、測量の４つを午前午後２つずつ体験して、１周するというパターン。

特に測量はこの後の森林学会向光性ポスター発表に使うデータ集めも兼ねているので、慎重に。思っていたよりも、測量は進み、もう１回の作業でまとまりそうです。今年から新しいパターンでの活動となりましたが、無事にこなせたため、今後もこの４グループ対応で受け入れを継続したいと思います。

12月の頭には初めてのエコプロダクツ展に出展しました。こちらは国土緑化推進機構の森林ブースにエントリする形で、また、東京学芸大Explayground推進機構GTEラボとの協働で出展です。大学は東久留米にある付属特別支援学校にある雑木林の活用を考え、その森をVR体験できるもの（現在はFacebookから実際にご覧いただけます）、本会は丸太３本を持ち込み、年輪を当てるクイズ。太さと年輪の数が一致しないので、間伐の必要性がわかります。多くの小学生が学校単位の校外学習で参加しているパターンが多く、ブースでは小学生が途切れることなく、大盛況で終わりました。また活動に新たに参加するメンバーも集まり、多くの成果がありました。大学との連携も今後深まると思いますのでご期待ください。

最後に、12月第３日曜日の活動から。SSHの残りの測量データの収集を行いました。今回から、準天頂衛星のみちびきからの補完信号を受信できる専用のGPS端末とその場でデータ確認できるタブレット端末を投入しました。このGPSは状況が良ければ２mまで誤差を小さくできるサブメートル級というもので、このデータとQGIS上で公図から得られた位置情報を比較し、安価に簡便に境界線調査ができる、という取り組みです。無事に目的地につくことができ、誤差もかなり小さいことがわかりました。３月の森林学会で発表予定となっております。午後からはForesTo Classとともに間伐。まだまだ未熟ですが、第３日曜日はForesto Classと連携して作業を進めたいと思います。

宮村　連理（本会、副理事長）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱